

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 グループホーム ささゆり苑

日付 平成 20年 2月 15日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成12年4月、介護保険制度でグループホームの指定を受けたのが19事業所、その中の1事業所で岡山県での草分けであった。認知症ケアの変遷を見ると、特養ホームでユニットケア、グループホームの誕生した「全人的ケア」の時代の始まりで、施設や病院から脱却して「ぼけ」でも安心して暮らせる場づくりをしていこうとする時代の皮切りだった。

成羽町の町長が、この地の廃校となった中学校の跡地を利用して、これからの高齢化社会に対応した最先端の事業を展開しようと、先端を行っていた笠岡市ときのこエスポータル病院の支援を得て「グループホーム」を設立した。当時は、痴呆やボケと言われ、狂うとるんじやと地域でも理解されないまま、4年位経過したが、重度の人がホームで良くなっていく姿を見て、ホームで落ち着いて暮らしていくのは普通の人だと思われるようになってきた。今から3~4年前からである。

設立当初から、現在の管理者はホームに従事しており、地元の人であることから、学校や町内会、老人会を通して、地域にも馴染める力になったのだろう。利用者は9人の方が広々とした、ゆったりとしたホームで穏やかな暮らしが出来ており、近所の人や地域の色々な方々との交流をしている。ただ、高梁市街から山の上まで登らなければならない。不便な所なので、職員の定着や確保に苦労しているのが現状である。管理者は「職員の質の向上が最重点課題であるが、この時代と立地条件から職員の出入りが激しくなる。しかし、このホームで体験した結果、良い経験をしてきたなあと次の事業所でも言ってもらえるようしっかり育てておきたい」と言う。そして、「職員同士協力しあって、利用者の介護ができれば良い。職員がいらいらせず、落ち着いてケアすれば利用者も落ち着いた生活ができる」とつけ加えた。利用者からは「家族に言っても何もしてくれん。ここでは私らの声を聞いて色んなことをさせてくれる」と言われるそうだ。「家とのギャップがないよう支援していきたい」と職員の言葉も聞いた。

このホームに入所してきた当時「ご飯は食べない」「会話はしない」「家族との関係がうまくいっていない」「表情がない」という人が、このホームで暮らし始めて「ここはええでえ。下に居た時は頭や肩が痛かったが今は何ともない」と利用者は言う。自分のやりたいことが何でもできるようになった」と明るく表情で、一日中絵を描いたり、ちぎり絵づくりに精を出している。そして、皆ご飯は良く食べる。表情や会話が豊かになっている。「お母さん、良くなった」「お母さんの表情を見ていると安心した」と家族は安心している。今は皆揃って歌を唱いながら近所を散歩する姿は元気そのものである。

特に改善の余地があると思われる点

職員の皆様が頑張ってここまで立派なホームに仕上げてきたこの努力を継続していけるよう、母体の市社協と共に職員の確保に全力をあげてもらいたい。又、すぐには実現できないが、グループホームの介護職の「人間性の回復」できる職位を高めていってあげて欲しい。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 理念「ゆったりとした空間で穏やかに暮らす」は、日々の生活の中に浸透している。</p> <p>2. 全体的に見て…: 理念の言葉そのもので、利用者は自分の好きな事をしながら毎日過ごしている。利用者全員仲良しで、午前中はテレビ体操をしたり、ボール投げをする。皆で歌を唱う。皆歌が好きで止まるところを知らない程、歌詞をめぐって歌い続ける。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: このホーム位、ハードな面で恵まれた空間を持っているところは他にはない。建物の中、周辺外回りを含めて改善していくところは必要ないだろう。</p> <p>2. 全体的に見て…: ホームの広いスペースを利用者はそれぞれの生活場面で全部活用できていると思う。室内の共用スペースは4区画ある。一つは食堂スペースで食事をしたり、個人で楽しむ事、絵を描いたり、ちぎり絵をしたり、ドリルをしたりして長い時間を過ごしている。テレビを見たり、テレビ体操もする。二つ目は皆が輪になってボール投げをしたり、歌を歌うスペース。三つ目は畳の間にコタツがあり、昼寝をしたり、カルタ取りでもするのだろうか。四つ目は廊下で、歩行訓練をする。利用者によっては自分の部屋で絵を描いたり、字を書く人もいる。住む人自身が生活空間をつくっている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 改善事項はないが、重要な事項の改良はどんどん進めてケアやサービスの質の向上に努めようと考えている。</p> <p>2. 全体的に見て…: このホームの利用者は、自分の得意な事をしたり、得意な事を見出して、立派な作品を創り上げることであろう。そして皆これらのカルチャーに熱中することであろう。先ず代表的な作品が“ちぎり絵”で、平成19年度に始めた利用者作品展で、このホームの作品が脚光を浴びたことである。そしてちぎり絵を大人のカルチャーとして世間から認めてもらった代表作であったと思う。包装紙や新聞折込広告の紙でうまくコントラストをつけた技法に感心した。</p> <p>塗り絵を超越した色鉛筆やパステル画を一生懸命描き上げることもすごい。男性も女性も作品づくりに精を出し、自分らしさを発揮している姿は生き活きている。又、生花をする男性もいる。空間やリビングルームで正月を待っていた。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 地域との関係も交流が深まり、家族との連帯も行われている。職員は管理者を筆頭に、計画作成担当者も今年度から専任して、質の向上に努めているので、現状維持及び項目によっては改良をして運営体制を充実している。</p> <p>2. 全体的に見て…: 引きこもっていた人、能面のような人等、人間味を失っている人をこのホームで人間として回復してあげ、皆明るく生活できる支援をしている。「私たちは娘にも息子にもなれない。家族とのつなぎ役になっている」と管理者は言っている。このことは否定はできないが、グループホームの職員は、「家族にもできなかったことをしている。医師でも、看護師でも、医療行為のために疾患部は治したけれど、人間性は失ってしまった。それらの人を救ってあげているのは職員ですよ。家庭で廃用化されて失望、不安、不信の人を人間としてあげているのも職員ですよ」それはホームで新しい人間関係を形成できる皆さん、自信を持って欲しい。</p>		